



プレス発表資料

平成 21 年 4 月 27 日
秋 田 大 学

平成 21 年度 秋田大学東京サテライト教養セミナー

「秋田学」を学ぶ

秋田大学の教育・研究・社会貢献についての活動状況を首都圏に向けて積極的に発信することを目的とし、標記セミナーを開催します。昨年度大好評だった「秋田学」をテーマに、秋田が持つ様々な魅力を紹介します。

今年度第 1 回目は、「秋田の食」と「秋田の水産物」について講演します。

【日 時】 平成 21 年 5 月 29 日（金）13:30～16:00

【会 場】 キャンパス・イノベーションセンター東京 2 階多目的室 2
（東京都港区芝浦 3-3-6）

【対 象】 首都圏一般市民等

【参 加】 入場無料／参加ご希望の方は別紙申込書を FAX するか、e-mail またはお電話でお申し込みください。

【内 容】 「秋田の伝統食とその活用」

教育文化学部 准教授 池本 敦

「日本における地域ブランド水産物と秋田におけるその可能性」

教育文化学部 准教授 篠原 秀一

【担当】

秋田大学社会貢献推進室 武内

電 話： 018-889-2270

FAX : 018-889-3194



平成21年度 秋田大学東京サテライト教養セミナー

「秋田学」を学ぶ

日時／平成21年 5月29日(金) 13:30～16:00

10月23日(金) 13:30～16:00

会場／キャンパス・イノベーションセンター東京 2階 多目的室2
(東京都港区芝浦3-3-6)

入場無料

申込必要

5月29日(金) 13:30～16:00

秋田の伝統食とその活用

教育文化学部准教授 池本 敦

日本における地域ブランド水産物と
秋田におけるその可能性

教育文化学部准教授 篠原 秀一

10月23日(金) 13:30～16:00

日本海の水運と北日本社会

教育文化学部教授 渡辺 英夫

郷土の芸能の教育的意義

—秋田の高校生による民俗芸能の伝承—

教育文化学部教授 桂 博章

申し込み・問い合わせ先

秋田大学東京サテライトオフィス

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

キャンパス・イノベーションセンター東京6階 604号

TEL/FAX: 03-5440-9104

E-mail: r604001@cic.zam.go.jp

<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/general/satellite.html>

秋田大学社会貢献推進室

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3194

E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp

主催 秋田大学

後援 秋田県・首都圏秋田県人会連合会



ブナの森、ハタハタ、きりたんぼ。秋田には、つつい自慢したくなる良いものがたくさんあります。でも、まだ気がつかれていない良いものが、もっとあるはず。『秋田学』は、隠された秋田の文化的価値を世界に発信し、秋田の活性化につなげようと構想されました。今回のセミナーでは、4つのテーマで秋田の魅力を紹介いたします。

5月29日(金)

秋田の伝統食とその活用

教育文化学部 准教授 池本 敦

秋田には気候や風土にあった食習慣や四季折々の食材を生かした郷土料理がたくさんあります。「きりたんぼ」や「しよつる」は現在まで続く特産品ですが、それ以外にもあまり知られていない消えゆく寸前にある伝統食や、もう幻になってしまった食べ物もあります。これら伝統食には、長い間の厳しい環境下の食生活で獲得した、食べることの可能な素材を最大限に生かす知恵が隠されています。

本講演では、これらに焦点をあて、隠れた秋田の伝統食を紹介いたします。また、失われた伝統食を復活させる取り組みとして私たちが手がけている「アケビ油」を紹介し、伝統食の現代における価値の再評価や消費者ニーズへの対応、さらには地域活性化への活用などについて考えていきます。

日本における地域ブランド水産物と秋田におけるその可能性

教育文化学部 准教授 篠原 秀一

特定の地名またはそれを連想させる言葉を含む商品名称の水産物を、ここでは地域ブランド水産物と称します。日本では古来より存在した伝統的な地域ブランド水産物は、流通業者あるいは消費地主導のものでした。

近年の日本における地域ブランド水産物は、生産地主導のものが数多く、その地域における水産資源の有効活用を意識し、その生産物および生産地に対する精一杯の誇りと商品化の意図が込められています。地域ブランド水産物には、大規模水産都市よりも中小規模漁村の水産業での工夫の中で成立するものが多く、大都市圏からは遠隔地でのブランド化が目立ちます。地域水産物のブランド化は水産業や地域活性化の切り札では決してありませんが、秋田ではハタハタを除いては地域ブランド水産物が見当たりません。秋田の地域性が反映するその要因を、講演で推察言明します。

10月23日(金)

日本海の高運と北日本社会

教育文化学部 教授 渡辺 英夫

江戸時代は水運の時代です。日本沿岸を取り囲む様に定期航路が整備され、海運は河川や湖沼の水運に接続し内陸奥深くにまでその商圏を広げていました。それは最大の商品であった年貢米を中央市場へ運ぶためであり、逆にこのルートを通じて沢山の商品が地方へと廻運されていきました。そうした中で、瀬戸内海から日本海を経て蝦夷地・北海道に至る地域には他に見られない特徴的な海運が展開します。それは、当時の農業生産から生み出された海運であり、貿易を独占した幕府政策から導き出されたシステムでもありました。

講義では、このような全体構造の中に秋田藩のみならず北日本の経済を位置づけて、その特徴的な姿を浮かび上がらせたいと思います。

郷土の芸能の教育的意義

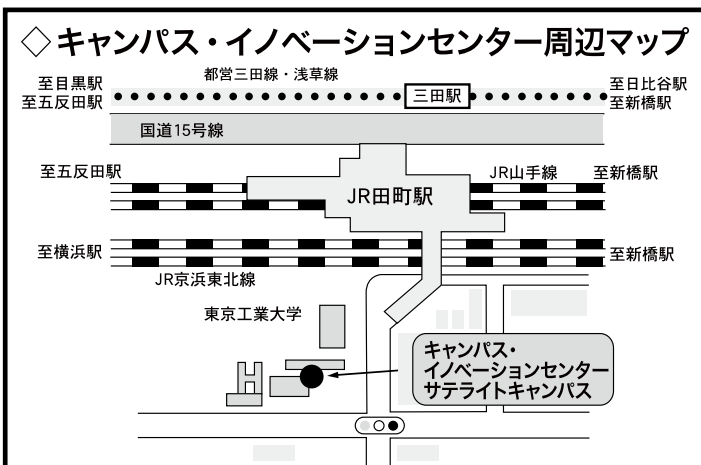
-秋田の高校生による民俗芸能の伝承-

教育文化学部 教授 桂 博章

教育の世界では「個性を伸ばす」といった個人を中心に置いた教育法が重視されていますが、義務教育においては他の人と共通した振る舞い方、知識等を身につけ、共通した物語を持つことも大切です。「歴史」が自分たちの過去について共通した物語であるのと同様に、「郷土の芸能」も過去、あるいは現在の自分たちの文化や生き方についての共通した物語であり、世代を超えて共有できる「郷土の芸能」の教育的意義は大きいと考えています。

秋田県高校文化連盟の郷土芸能部門では、毎年11月に発表会を行ない、「猿倉人形芝居」、「西馬音内盆踊り」、「節山囃子」、「なまはげ太鼓」などが演じられています。講義ではこれらの芸能について解説すると共に、芸能を支える秋田県の高校生の活動の様子、高校生の意識の変容などについて、今日の教育上の問題点と関連づけながら言及する予定です。

会場のご案内



キャンパス・イノベーションセンター東京

東京都港区芝浦3-3-6

連絡先:秋田大学東京サテライトオフィス

Tel/Fax 03-5440-9104

E-mail r604001@cic.zam.go.jp

アクセス

JR山手線田町駅芝浦口から徒歩1分です。

都営地下鉄三田駅から徒歩5分、

A4 出口から JR 田町駅芝浦口へ向かってください。

参加申込書

●参加ご希望の方は、下記申込書を FAX するか、E-mail または電話でお申し込みください。

Tel/Fax 03-5440-9104 ご記入いただいた個人情報は、秋田大学主催セミナー等のご案内以外には使用いたしません。

お名前	企業・団体	ご連絡先電話番号	参加希望日
			<input type="checkbox"/> 5/29(金) <input type="checkbox"/> 10/23(金)